

放射能から子ども達を守りたい！

原発被災者の 住宅確保を 求めるつどい

避難用住宅の
無償長期提供を！

新規避難者の
受け入れ再開を！



『よっといで！クリスマス会』の様子
2014年12月
阪神市民放射能測定所・つむぎの家にて

原発事故から4年。大量の放射能汚染によって、広範な地域が汚染され、多くの世帯が長期の避難を余儀なくされています。

福島県では、小児甲状腺がんとその疑いの子どもたちが117名（福島県県民健康調査）見つかり激増しています。放射能による健康被害への不安は高まっているのかかわらず、国も福島県も「放射能の影響による異常多発」を否定しています。

国は「年20ミリシーベルト」を基準に帰還施策を推進し、福島県も避難者住宅の支援を2016（平成28）年3月末までの期限を定め、まるで原発事故や放射能汚染がなかったかのような状況を作りだし、甲状腺検査についても縮小させることが狙われています。

子どもの命を最優先し、子どもたちを守るために避難してきた避難・移住者にとって、提供されている避難用住宅から追い出されたり、家賃が有料になったりすると避難生活の継続ができなくなってしまう死活問題になります。原発事故による放射能汚染は、自然災害とは違い何十年間も続く人災であり、数年で解決するものではありません。帰ろうと思っても帰れないのです。

行政に対して放射能健診の実施や食品放射能測定の拡充を求めてきましたが、この集いでは、さらに避難・移住者の声や、今なお現地で不安を持ちながら暮らす被災地の声を受けとめ、緊急の課題として、避難者用住宅の無償期間長期延長と新規住宅の提供を求めていきたいと思えます。

3月22日

13時00分～16時30分

神戸市勤労会館 多目的ホール

内容(予定)

- 甲状腺がん117名の多発をどう見るのか
— 医療問題研究会 —
- 原発事故から4年目の声
— 福島現地から —
— 避難者・移住者から —
— 阪神・市民放射能測定所から —
- 避難用住宅・具体的施策の実現に向けて

参加費 1000円 避難・移住者 500円



主催者/連絡先

- 阪神・市民放射能測定所 安東 090-3828-9579
- 放射能健診100万人署名運動実行委・兵庫 松谷 090-3975-0670
- NPO法人 つむぎの家 畑 090-7491-5430